

福岡市総合図書館映像ホール
Fukuoka City Public Library Movie Hall

シネラ

Ciné-là

シネラ・ニュース
February. 2002 No. 67

タイ映画特集

特集

特別企画

『リングの獅子・カムシン』 イラスト:花野孝史

グル・ダット的全貌



特集

タイ映画 特集

最近、タイ映画が日本で劇場公開されるようになった。「ナンナーク」や「アタック・ナンバーハーフ」等の作品が劇場公開され、タイが素晴らしい映画国であることが少し認識されたのではないだろうか。特に「運命からの逃走」のオキサイド・パン監督や「69」のペンエーク・ラタナルアン監督のように、これまでと違う新しい感性の若い監督が登場していることも見逃せない。しかしそれ以前の80年代からタイでは数多くの娯楽作品が作られてきた。そしてアメリカ映画と拮抗しながらヒットを飛ばしてきたのだ。こういった作品の系譜の上に、現在のタイ映画がある。今、新しいタイ映画への期待とともに、過去の80年代から近年までのタイ映画を振り返る。

「ナンナーク」等により近年急速に注目を浴びてきたタイ映画の特集

会 期：20日(水)～24日(日)

観覧料：500円(大人)

400円(大学生・高校生)

300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

20日(水)19:00 22日(金)14:00

ヌアンチャウィー 愛の炎

監督：パンチョン・コーサラワット
出演：シンチャイ・ホンタイ
アビチャート・ハラムチャック

日本語字幕付き

1984年/35ミリ/カラー/122分/タイ



Crime and Passion

ヌアンチャウィーという看護婦が殺される。警察の捜査が進む内に捜査線上に上がってきたのは、ヌアンチャウィーの夫である医師のウティットだった。59年にタイで実際に起こった殺人事件を基に、人名や場所をそのまま再現した作品。過去と現在を交差させながら描く手法に、これがデビューとは思えない監督の手腕を感じることができる。

21日(木)14:00 23日(土)11:00

リングの獅子・カムシン

監督：パンチョン・コーサラワット
出演：タナー・シンサップ
マラシー・ナバンチャン

日本語字幕付き

1986年/35ミリ/カラー/117分/タイ



Khamsing, The Fighter

ムエタイは、キックボクシングとして日本でも知られているが、本作は田舎から出てきた情熱に燃える青年カムシンが、ムエタイで成功するまでを描いたサクセスストーリーである。ムエタイの様々な訓練や、試合前の舞踊と祈り、そして志気を鼓舞するための伝統音楽などが描かれる娯楽作品である。

21日(木)19:00 23日(土)15:00

一度でたくさん

監督：マノップ・ウドムデート
出演：シンチャイ・ホンタイ
リキット・エークモンコン

日本語字幕付き

1987年/35ミリ/カラー/105分/タイ



Once is More than Enough

大都市バンコクを舞台として、そこで暮らすキャリアウーマンの主人公に降りかかるレイプや妊娠などの問題を話し話題となった作品。ウドムデート監督は社会派の監督として知られており、女性の自立や社会の矛盾を鋭く描写する。タイ国内の映画賞であるスワラディー賞で作品・脚本・主演男優賞などを受賞している。

22日(金)19:00 24日(日)11:00

素晴らしいとき

監督：ソムチン・スリスバブ
出演：モス・パティバルン
スクシト・タアントオン

日本語・英語字幕付き

1993年/35ミリ/カラー/115分/タイ



My Wonder Year

主人公のトンは高校生で受験を控えていた。父親はエンジニアになることを望んでいたが、トンは映画製作者になることを夢見ていた。そこへかつてトンと同じように映画の世界を夢見て、事故で死んだトンの兄の幽霊が現れる。ハイティーン向けの娯楽映画であるが、随所に他の映画の引用があり、映画へのオマージュが溢れる作品になっている。

20日(水)14:00 24日(日)15:00

運命からの逃走

監督：オキサイド・パン
出演：サンヤー・クンナゴーン
ナットリガー・タンマブリダーナ

日本語・英語字幕付き

1997年/35ミリ/カラー/105分/タイ



Who is Running?

ジャップの恋人ワーンは交通事故により危篤状態に陥ってしまう。そこに謎の僧侶が現れ、ワーンを救いたければジャップが五人の人間の命を救わなければならないと告げ、未来の死亡記事が書かれた新聞を手渡す。タイで大ヒットしたSFXエンターテインメントで、輪廻転生をテーマとしている点が仏教国タイらしい。

会 期：6日(水)～17日(日)

※休館日・休映日を除く

観覧料：600円(大人)

500円(大学生・高校生)

400円(中学生・小学生)

●定員制・各回入替制。

●チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

●福岡市在住の障害者の方及び、福岡市在住の65才以上の方は300円。(手帳の提示が必要です。)

14日(木)14:00

16日(土)15:00

Fourteenth Day of the Moon

十四夜の月

監督：M・サーディク

出演：グル・ダット

ワビダー・ラフマーン

日本語字幕付き

1960年/35ミリ/モノクロ/170分/インド



裕福なナワールは市場で出会ったジャミールに一目惚れする。そのころ彼に縁談が起るが、ジャミールを忘れられないワナールは友人に縁談を譲つてしまふ。ところがその縁談の相手はジャミールだった。本作ではグル・ダットは製作と主演で参加しているが、グル・ダット製作作品としては最大級のヒットとなった。

15日(金)14:00

17日(日)15:00

King, Queen and Knave

奥様と召使い

監督：アブラール・アルヴィー

出演：グル・ダット

ミーナークマリー

日本語字幕付き

1962年/35ミリ/モノクロ/173分/インド



19世紀末イギリス統治時代のカルカッタを舞台とした作品。退廃的な生活に明け暮れ次第に没落する地主達、夫の夜遊びに悩みアルコールに依存するヒロインが、堅実な生活の市民達と対比的に描かれる。稀代の名女優ミーナークマリーの匂い立つような演技が本作を引き立てている。

14日(木)19:00

17日(日)11:00

In Search of Guru Dutt

グル・ダットを探して

監督：ナスリー・ムンニ

カビール

日本語字幕付き

1989年/ビデオ/カラー/84分/ドキュメンタリー/イギリス



イギリスのチャンネル4が製作したドキュメンタリーで、39才で夭折した天才監督グル・ダットへのオマージュ溢れる作品。親戚であるシャム・ベネガル監督などの人々へのインタビューと残された作品により、グル・ダットの人間像・作家像に迫り、当時の映画界の状況も描いている。

The Entirety of
Guru Dutt

1953年／35ミリ／モノクロ／150分／インド

映画との出会い

自分史物語パート2

私と外国映画との出会いは中2の夏にさかのぼる。天神の朝日会館という映画館で初めて観た洋画が何と戦争物の「バルジ大作戦」。(母親に中体連の開会式に参加すると言いつながら家を出たが、バレー部の補欠では開会式には出れても試合にはとても出ているはうえない……と自分勝手に行き先を変更したのである。)この映画は、第二次世界大戦のヨーロッパ戦線が描かれているが、学校で習った授業より欧米各国の関係性がよく分かった。これで映画熱に火がついた訳ではないが、以後、「007シリーズ」のジェームス・ボンドにはまった。次回作が待ち遠しい日々を過ごしたものである。高校に入ってから、活動範囲が広がったこともあり、博多駅のステーションシネマや天神のセンタースイマ、中洲の宝塚会館、大洋劇場などをよく徘徊した。あるとき、「ロミオとジュリエット」を観たが、隣に座る彼女に気づけられないよう溜め息をつきながらも、オリヴィア・ハッセルを食い入る様に観ていた。(案外彼女の方も、相手役のレナード・ホワイティングを同じように見つめていたのかも知れない。)その後、卒業後暫くして社会人になってからは更に範囲が広がり、市内のあちこちの映画館で映画を観まくっていた。もっぱら俳優で見る作品を選んでいたので、アラン・ドロンやポール・ニューマン、スティーブ・マックイーン、オードリー・ヘプバーン、マリリン・モンローなどの作品が多かった。今風に言えば、ラブイデオナール、キャメロンディアスといったところだろうか。当時は2番館や3番館もまだ健在で、百円〜三百円、高くても五百円位で観ることができた。

二十歳を少し過ぎた頃、ワーナー映画のK氏の手伝いで、松竹ビカデリーで上映中だった「エクソシスト」の入場整理を手伝ったことがある。ビカデリー1・2の同時上映だったから館内に客がとても入れきれず大混乱の様相を呈していた。入替時に場のあちこちで席取りのトラブルが絶えず、「たかか映画を観に来て何で喧嘩までせないかん?」といった感があったが、気楽に考えていた場内整理は実は大変な仕事であった。特に階段部分が怖くて、スタッフの制止を振り切って入ろうとする客と映画を見終わって帰ろうとする客との間に、あちこちで怒号を交わしながら押し合いへし合いし、挙げ句の果てには将棋倒し寸前の所を何とかかわしながらの客だった。(このとき、倒れそうになる体を支えながら仕事を何とかが誘導していたが、このま下敷きになったら本当に死ぬかもしんと本気で思ったものである。)

また、この年だったか次の年だったかは忘れたが、ブルースリー主演の『燃えよドラゴン』が大当たりで、こちらの方も手伝いと邪魔を兼ねて松竹に出入りさせてもらったことがある。映画を見終わってから出ていく男性客の殆どが、ブルースリー一ぱりに手振り身振りの空手スタイルをまねる風景があちこちで見受けられた。空手の綱走番外地シリーズの高倉健よろしく、肩で風を切るのと全く同じである。(自分を

■お知らせ

各団体の自主上映

●2月3日(日)11:00/14:00
「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」

(監督: ヴィム・ヴェンダース)
観覧料/前売: 1,200円 当日: 1,400円
主 催/福岡映画サークル協議会
(Tel. 092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

含め、男という動物は何でこんなに単純なのかと改めて思う。)

1970年代以降、欧米映画、特にハリウッド映画の隆盛の影響を受け、地方都市のミニシアター系映画館が閉館を余儀なくされるところが増えてきた。ハリウッド映画のエンターテインメント性の高い作品は理屈抜きに面白いし、自分の好きな俳優が出演した作品はやはり観たいと思うのが人情であらうと思う。ただ、単館での営業的な努力にも限界があるだろうし、その映画館の経営者の固有の事情などもあろう。それを単純に経済の原則や資本の論理でばっさり切り捨てるのは短絡すぎると思う。ただ、残念なことに、ビデオやDVD、テレビなど、映画のフィルム以外のメディアが発達し、取替えて映画館で観なくても済むという環境自体が映画館の営業（上映活動）を次第に蝕んできたのもたまたま事実である。

作り手側と観て側が直接的に結ばれる映画の流通形態に対抗できるサービス形態が新しく構築されるか、或いは映画の持つ魅力(作り手である監督のメッセージ)を、より分かりやすく感動的かつ魅力的に観て側(映画ファン)に伝えられるようになるければ、小さな映画館が大手のシネマコンプレックスとは勝負にならないと思う。

そういう意味でハリウッド映画とは違うスタンスで作られているアジア映画や最近の日本映画は、作り手である監督のメッセージ性の強い作品が多い。そして、そうした映画監督のメッセージに触発されて、新しく映画監督に育った人も多い。一昨年の暮れにシネマで企画した「ゴダールの映画史」の上映企画の時、特別講演会での席上で講師の青山監督が話された逸話に、十数年前に、西新にあった映画館（この時は名前が出なかったが「テアトル西新」のこと）で上映された、ジャン・リュック・ゴダールの「気狂いピエロ」と、「彼女について知っている二、三の事柄」を観たという話された。当時監督はまだ学生で、わざわざ北九州から西新まで見に来たとのことであった。そして、自分が映画界に入るきっかけがこの西新で見たゴダールの作品だとも言われている。

当時、このテアトル西新のような極めて質の高い個人的な映画を上映する映画館も福岡にたくさんあったし、現在でも、TNCのシネサロンパヴェリアやシネリーブル博多駅1・2、シネテリエ北天神やKBCシネマなどが頑張っている。

劇場で観る映画は、テレビやビデオで観る映画と同じ映画であるが、本質的には全然違う。それは映画を観ている人の状態が映画を観るという行為に専念しているからに他ならない。映画の中で、監督が出しているサインを観ながら、或いは、映画の中で演じている俳優に対して何時の間にか感情移入をしているが、監督の出す意図を主人公と一緒に感じ取っているからである。その体験を積み重ねていく過程の中で「五感や価値観」を養っていき、感性豊かな人間として育っていくのだと思う。私自身は図書館で映画の仕事に携わって今年の三月でまる5年になる。アジア映画や日本映画の上映を通して市民に映画に親しんでもらうという仕事をしているが、おおざっぱな紹介しかできていなかったのだ、これからはもっと監督のメッセージをダイレクトに伝えたいるように精進していきたいと思う。

映画はいろいろな題材を通して事実と虚構を織り交ぜているが、監督が発信するメッセージそのものは、より深い真実であることは間違いない。

映像資料課 岩下治巳

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしておりますが、ひと月分の3月号を残すのみとなりました。引き続き平成14年4月号～平成15年3月号までの購読を希望される方は、郵便切手(90円×12ヵ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。継続のお申し込みをお待ちしております。

宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

2月

上映スケジュール

1 金	休 映 日	
2 土	休 映 日	
3 日	自主上映「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」	
4 月	休 館 日	
5 火	休 映 日	
6 水	14:00 紙の花	19:00 賭け
7 木	14:00 グ 渴き	19:00 網
8 金	14:00 ル 鷹	19:00 表か裏か
9 土	11:00 ・ 55年夫妻	15:00 紙の花
10 日	11:00 ダ 賭け	15:00 渴き
11 月祝	11:00 ッ 網	15:00 表か裏か
12 火	休 館 日	
13 水	休 映 日	
14 木	14:00 の 十四夜の月	19:00 グル・ダットを探して
15 金	14:00 全 旦那様と奥様と召使い	19:00 55年夫妻
16 土	11:00 貌 鷹	15:00 十四夜の月
17 日	11:00 グル・ダットを探して	15:00 旦那様と奥様と召使い
18 月	休 館 日	
19 火	休 映 日	
20 水	14:00 タイ 運命からの逃走	19:00 ヌアンチャウィー 愛の炎
21 木	14:00 映 リングの獅子・カムシン	19:00 一度でたくさん
22 金	14:00 画 ヌアンチャウィー 愛の炎	19:00 素晴らしいとき
23 土	11:00 特 リングの獅子・カムシン	15:00 一度でたくさん
24 日	11:00 集 素晴らしいとき	15:00 運命からの逃走
25 月	休 館 日	
26 火	休 映 日	
27 水	休 映 日	
28 木	月 末 休 館 日	



交通アクセス：当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄：西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス：天神～都市高速経由～福岡タワー南口
(所要時間 昼間で約20分)

博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口
(所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雜記

編集雑記 今月のシネラのポスターに使った写真(本ニュースの「潮き」の作品解説にも掲載)に注目してください。これが、1950年代にイン・映画に誕生した天才監督、グランドットの最高傑作といわれる映画の一場面です。そして、この男役は俳優でもあったグランドットとヒーロー・ターフマン。この美貌の女優のために、グランドットは妻を残して39歳で自殺しました。今回お届けするのはこの「グランドットの全貌」。これを逃すと二度と福岡では見られないかも知れません。そしてもう一つの特長が、イラン、インド、韓国についてチームを起こしつつあるグランドット。どちらも要チェックです。是非ご覧ください。(M.Y.)